

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会を振り返って

前田 朗 (まえだ あきら)

まえだ整形外科 博多ひざスポーツクリニック
久留米大学人間健康学部スポーツ医科学科

1987年に始まり第9回を迎えたラグビーワールドカップが2019年にアジアで初めて日本で開催された。9月20日の開幕戦から11月2日の決勝戦までの6週間、全国12の開催都市において合計45試合が繰り広げられた。日本代表が4戦全勝で予選プール1位通過してベスト8に進出する活躍もあり、日本中、世界中が沸き返り、大会は成功したとあってよいであろう。ティア1(強豪国)以外の国におけるワールドカップの開催ということで、多くの不安と障壁があった中、このビッグイベントに向けて、私たちは多くの仲間とともに本大会の医務メンバーの一員として約5年前から準備してきた。全国12の開催都市において活動できるドクターの人材確保とスキルアップ、意思統一を進めた。参加する多くの医師がスポーツ現場における救急処置の国際資格(ICIR, PHICIS)を取得したり、脳振盪への対応の標準化・客観化を徹底したりした。大会医務に関わったドクターへのアンケート調査の結果を踏まえ、ここで得ることのできた多くの経験と感動を、選手の声も交えながら、もう一度振り返ってみたい。